

作業療法士国家試験および 言語聴覚士国家試験 からみた心理学

大阪府立大学総合リハビリテーション学部作業療法学科准教授

大西久男 (おおにし ひさお)

Profile — 大西久男

大阪大学医学部付属病院リハビリテーション部言語療法室、鳴門教育大学障害児教育講座助手、大阪府立看護大学医療技術短期大学部作業療法学科講師、助教授を経て、2005年の4年制化、2007年の改組により、現職。専門は神経心理学。主な著書は、『神経心理学評価ハンドブック』（分担執筆、西村書店）、『「中途脳損傷者の生活実態およびニーズに関する実態調査」報告書』（共著、大阪府助成金事業）など。言語聴覚士免許登録（1999年）。



作業療法士（以下、OT）および言語聴覚士（以下、ST）は、いずれも厚生労働大臣名で付与される国家資格（免許）である。免許取得には定められた養成校に3年以上就学し、所定の課程をおさめ、卒業して国家試験の受験資格を得る。もちろん、卒業のみで免許を取得できるものではなく、国家試験に合格しなければならないことはいまでもない。いずれも養成校に進学するため資格は「高卒以上」であり、従来は、専修学校が養成校の多くを占めていたが、近年では、大学での教育が主流になってきている。読者の方々には、師範学校から「教員養成系大学」に移行した経緯をイメージしていただければ、およその流れがつかめると考える。

養成校における「心理学」の教育

OTは「理学療法士及び作業療法士法（昭和四十年六月二十九日法律第百三十七号；最終改正：平成一九年六月二七日法律第九六号）」の下、一方STは言語聴覚士法（平成九年十二月十九日法律一三二）の下で定められた免許である。先に述べた所定の課程に関しては、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（昭和四十一年三月三十日文部省・厚生省令第三号；最終改正：平成一四年二月二日文科省・厚生労働省令第1号）」と「言語聴覚士学校養成所指定規則（平成十年八月二十八日文部省・厚生省令第二号；最終改正平成一九年一二月二日文科省・厚生労働省令第二号）」に定めら

れた枠の中で、学校ごとに独自のカリキュラムを組むことになる。

次ページ表1にそれぞれの指定規則に示された「教育の内容」をまとめた。いずれも3年間で「93単位以上」であるが、大学での教育の場合、4年生課程であるため、指定規則を満たしながら、大学の理念や独自性を加味し、最終的には、120～130単位が卒業要件になるようである。学生は、各大学の卒業要件を満たすことで、国家試験の受験資格を得ることができるのである。この点も、教員養成系大学で教員免許を取得するのと、イメージとしては同様である（ただし、教員免許は申請制である）。

さて、指定規則の中に「心理学」という言葉を探してみると、OTには、全く示されていないのに対し、STには、はっきりと明記されている。ただし、指定規則の「教育の内容」は大綱化されたものであるため、「心理学」の表記の有無にかかわらず、科目立てが各校に委ねられているのも実際である。

ここで、各校が実際どのような科目を開講するかについては、もう一つ大きな法律が存在している。最上位のPT・OT法やST法には、両者とも、下位に施行令や施行規則等が定められており、国家試験での「試験科目」の表記が、それぞれ施行規則の中に示されている。OTの場合、この段階で、初めて「臨床心理学」という言葉が認められるようになる（発達心理学に近接する「人間発達学」も同様であろう）。

表1 養成校における教育の内容と国家試験における試験科目

a. OT [PT] の場合

養成校での「教育の内容」 ¹⁾		国家試験での「試験科目」 ²⁾
教育内容	単位数	
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	14
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 保健医療福祉とリハビリテーション	12 12 2
専門分野	基礎作業療法学 [基礎理学療法学] 作業療法評価学 [理学療法評価学] 作業治療学 [理学療法治療学] 地域作業療法学 [地域理学療法学] 臨床実習	6 5 20 4 18
合計		93

b. ST の場合

養成校での「教育の内容」 ¹⁾		国家試験での「試験科目」 ²⁾
教育内容	単位数	
基礎分野	人文科学二科目 社会科学二科目 自然科学二科目 外国語 保健体育	2 2 2 4 2
専門基礎分野	基礎医学 臨床医学 臨床歯科医学 音声・言語・聴覚医学 心理学 言語学 音声学 音響学 言語発達 社会福祉・教育	3 6 1 3 7 2 2 2 1 2
専門分野	言語聴覚障害学総論 失語・高次脳機能障害学 言語発達障害学 発声発語・嚥下障害学 聴覚障害学 臨床実習	4 6 6 9 7 12
選択必修分野		8
合計		93

1) それぞれの「学校養成施設指定規則」より。2) それぞれの「施行規則」より。いずれも、一部改変。

OT と PT (理学療法士) の国家試験では、一般に「共通問題」と「専門問題」といわれ、共通問題は、OT, PT 同じ問題を受験することにより、表中の専門基礎分野に相当する科目がこれにあたる。

OT の場合、「臨床心理学」や「人間発達学」を開講しなければならないということは容易に推測がたつが、ST は、「心理学」のまま国家試験科目として表記されている。心理学のどのような科目・内容を開講しなければならないのかが定まっていない。また、読者の方々の学校でも、「臨床心理学」という科目であっても、担当される先生によってその内容が異なることがある、というのはご存じのことだと思う。

実は、法律ではないが、OT [PT], ST 共に、施行規則をさらに説明した「国家試験出題基準」

が公表されている。両者ともに、見出し(タイトル)、大項目、中項目、小項目に分類され示されている。大項目は中項目を束ねる見出しで、科目全体の範囲を示すものであり、中項目は試験の出題範囲となる事項で、試験はこの範囲から出題される。最後の小項目は、中項目に関する内容のうち、出題範囲を限定する場合のキーワードを示すもの、である。

次ページ表 2 に、OT [PT] と ST の出題基準のうち、心理学にかかわるものの、見出し、大項目と中項目を抜粋し示す。

前置きが長くなったが、国家試験の出題基準に示されたものをみれば、OT [PT] と ST の養成校において、最低限、どのような心理学関連の科目・授業が行われているかについて、おわかりいただけたのでは、と思う。

表 2 国家試験出題基準

a. OT・PT	
I 人体の構造と機能及び心身の発達	
大項目	中項目
4 人間発達学	A 総論 B 各期における発達
II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	
大項目	中項目
4 臨床心理学	A 基礎理論 B 正常および異常心理 C 臨床心理検査法 D 心理療法およびカウンセリング
b. ST	
V 心理学	
大項目	中項目
1 認知学習心理学	A 感覚 B 知覚・認知 C 学習 D 記憶 E 思考 F 言語
2 心理測定法	A 精神物理学(心理物理学)的測定法 B テスト理論 C 尺度構成法 D 調査法
3 臨床心理学	A 人格理論 B 発達各期における心理臨床的問題 C 異常心理 D 臨床医学的査定 E 心理療法
4 生涯発達心理学	A 発達の概念 B 新生児期・乳児期 C 幼児期・児童期 D 青年期 E 成人期・老年期

特に、STを見ていただくと、かなり深く心理学関連の講義等を実施しなければならないこともご理解いただけたと思う(表では割愛したが、小項目で挙げられているキーワードをみると、心理学専攻学生でも、「知ってる?」と聞いたくなるようなものも挙げられていた)。

国家試験における「心理学」の問題

いずれも、国家試験は、午前午後で各100問を2時間半の時間内に回答するものである。

OT [PT] は平成22年度で46回、STは13回の国家試験が実施されている。今回の特集にあたり、昨年度と一昨年度に実施された国家試験問題を概観してみた(OT [PT] は、第44回・45回、STは第11回・12回である)。なお、OT [PT] については、共通問題と専門問題がはっきりと分かれて出題されているので、共通問題のみであったことをお断りしておく。

出題基準の中項目、小項目を参考に、これは心理学だ、これは(明らかに)違う、これは心理学かな……、といった感じで問題に向かい合

ってみて、学生も大変だ、と思いながら、この作業を実施した。悩んだ問題の多くは、「精神医学」との区別や「小児医学(障害児医学)」のものがほとんどであった(受験生からすれば、区別の必要はないのだが)。

結論からいうと、OT [PT] は過去の2年間で、共通問題100問中に心理学の枠組みと考えられるのが、3~4問。STは、午前午後各100問中に12~14問が、心理学の問題と考えてよいと判断をした。OT [PT] に比べ、はるかに多い出題であることがわかるが、学校養成所指定規則内での教育の内容にも「心理学」がはっきりと明記され、最小単位数も7単位以上、ということからも、ある意味妥当な出題数かもしれない。

さて、ここで、いわゆる過去問を提示してみようと思う。まずOT [PT] の平成21年度(第45回)実施分の全問(と考える)を示す。

79 患者が治療者に不満を抱き、沈黙を続けている時の防衛機制はどれか。

1. 抑圧
2. 否認
3. 解離
4. 行動化
5. 反動形成

午前問題 (正解は4)

80 Eriksonによる各発達段階の課題で正しい組み合わせはどれか。

1. 乳児期 - 信頼
2. 幼児期 - 勤勉性
3. 学童期 - 親密
4. 青年期 - 自律性
5. 成人期 - 同一性

午前問題 (正解は1)

83 障害受容に至る心理状態で誤っているのはどれか。

1. 否定
2. 保続
3. 後悔
4. 悲嘆
5. 葛藤

午前問題 (正解は2)

78 正しい組み合わせはどれか。

1. Freud - 普遍的無意識
2. Jung - オペラント条件づけ
3. Piaget - 来談者中心療法

4. Rogers — 自由連想法
5. Winnicott — 移行対象

午後問題 (正解は 5)

次に、ST の平成 21 年度 (第 12 回) 実施分の一部を示す。

問 24 感覚遮断によって生じるのはどれか。

- a. 暗順応
 - b. 刺激汎化
 - c. 幻覚
 - d. 記憶力の減退
 - e. 覚醒水準の昂進
1. a,b 2. a,e 3. b,c
 4. c,d 5. d,e

午前問題 (正解は 4)

問 29 新たに作成した抑うつ尺度の妥当性の指標として適切なのはどれか。

- a. 既存の尺度との相関
 - b. 面接による評価との相関
 - c. 尺度を二分割した時の相関
 - d. 各項目の得点と合計点数の相関
 - e. 2 回実施した得点の相関
1. a,b 2. a,e 3. b,c
 4. c,d 5. d,e

午前問題 (正解は 1)

問 34 正しい組み合わせはどれか。

1. 保存実験 — 初期環境の重要性
2. 誤信念課題 — 心の理論
3. 選好注視法 — 社会的参照
4. 三つ山問題 — 奥行き知覚
5. 視覚的断崖 — 自己中心性の実験

午前問題 (正解は 2)

問 24 オペラント条件づけについて正しいのはどれか。

1. 罰訓練はオペラント条件付けに含まれない
2. 省略訓練 (オMISSION) は特定の反応を消去する
3. 部分強化すると消去は速くなる
4. 逃避・回避訓練は特定の反応を減衰させる
5. 報酬訓練は特定の反応を減衰させる

午後問題 (正解は 2)

問 28 性格に関する多数の質問項目への評定から基本的な性格特性の次元を探るために用いる分析はどれか。

1. 因子分析
2. 重回帰分析
3. 分散分析
4. 共分散分析
5. 正準相関分析

午後問題 (正解は 1)

問 32 発達研究における横断的方法について正しいのはどれか。

1. 実験的研究には適さない
2. 一時点において異なる年齢群を対象とする
3. 対象となる年齢層は限定される
4. 世代による発達の違いを検討できる
5. 発達のプロセスの個人差を検討する

午後問題 (正解は 2)

問 34 愛着に関係ないのはどれか。

1. 同化作用
2. Bowlby, J.
3. 内的作業モデル
4. ホスピタリズム
5. ストレンジ・シチュエーション法

午後問題 (正解は 1)

読者の皆さま、いかがですか？

今回挙げた問題は、(基本的な) 心理学の知識を問う、比較的、オーソドックスなものだと思われる。しかし、OT [PT] の国家試験では、共通問題での「精神医学」や「小児医学」等の近接科目に加え、専門問題においても、下地として心理学の知識を要するものも出題されている。これは ST の場合も同様であるが、ST の場合にはさらに「失語・高次脳機能障害学」(＝神経心理学) や「言語発達障害学」も試験科目であり、これらの科目として出題される問題では心理学の基礎的知識が大前提 (必須) であるもの、あるいは応用能力が必要とされるものが多数出題されていることも付け加えておきたい。

(リ) ハビリテーション医療専門職である OT [PT], ST はともに、対象となる人々の行動を理解したうえで、それぞれの専門的知識・技術を提供する。養成校での授業科目、国家試験での問題の多少にかかわらず、心理学という学問が寄与する点は大きいはずである。

また、今回、OT [PT] と ST の養成校における心理学教育と国家試験での心理学の問題の概要を示したが、本稿が今後、心理学関連職種の「国家資格」化の一助になれば幸いである。

文 献

本稿で挙げた法律関係等は、インターネットで公開されていますので、ご参照ください。